

# あゆみ

2020年  
被昇天号 Web版



発行所  
カトリック高幡教会  
あゆみ編集委員会  
TEL042(592)2463  
FAX042(592)2464

## 人生は「歩み・道」

主任司祭 ベロッティ・ジャンルーカ

主の平和！

皆様、残暑お見舞い申し上げます。ミサを再開してから、そろそろ二ヶ月が経ちます。高幡教会では、コロナウイルス感染防止対策のため他の活動の再開は難しいでしょうが、聖母の被昇天祭に合わせて「あゆみ」の発行を再開することにいたしました。

日々報じられるニュースでは、コロナウイルスの感染が日本全国のみならず世界のすみずみにまで広がり、その影響がどれほど広い範囲におよんでいるか、計り知れないほどです。いまだかつて経験したことのないこの事態により、日常生活だけではなく、教会共同体また一人ひとりの信仰生活も影響を受けていることと思います。

「ソーシャルディスタンス」という対策

のため私たちの社会生活は少なからず変わってしまいました。すなわち誰にとっても家から出かけたり他人と交流できるチャンスなどが減ってしまったと思います。しかし私たちの人生は外面的生活もあれば内面的生活もあります。

この内面的生活に関してですが、最近心に響いた文(原文：イタリア語)がありましたので、皆様と分かち合いたいと思います。

紀元四世紀の隠遁者として知られる、エジプト・トムイスの聖セラピオンはローマを目指して旅に出ました。そこには、決して修道院の独房を出たことのない修道女が住んでいることを耳にしていたからです。一方、セラピオンは、いつも山や谷を巡り歩いていたので、どうすれば彼女のように完全な隠れい生活ができるかということに、たいへん興味を抱いていました。そこで、彼女に会いに行くことにしたのです。彼女に最初に投げかけた質問はこれでした。「あなたはいつもここに座って何をしていますのですか?」。すると、彼女はこう答えました。「私は座ってなどいません。いつも歩き続けています」。

「私は座ってなどいません、いつも歩き続けています」この言葉は、すべての信者が口にすることのできる言葉ではないでしょうか。クリスチャンである、ということの意味します。教会の神父たちは、シナイ砂漠を歩きまわるユダヤ人の巡礼と私たちの生活を好んで比較しました。私たちはテント生活を送っているものであり、私たちに恒久的な住まいはありません。たとえ私たちの肉体が死んでも、私たちの心は、時計もカレンダーも見ぬまま旅を続けていきます。それは永遠に続く旅だからです。

それゆえ、私たちの人生を定義する最も古い表現のひとつに、まさに「歩み・道」という表現があります。キリスト教は、宇宙に関する理論でもなければ、単なる概念の記述に終わるものでもありません。私たちがキリスト者として選んだ「歩み・道」という人生の生き方は、イエス・キリストご自身です。なぜかと言うと、イエスご自身が「道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」と言っているのです(ヨハネ十四・六)。キリスト教は、私たちが向かっていく「歩み・道」、私たちの人生の「歩み・道」です。

神様への希望と信頼を持つて高幡教会の全ての皆様とご一緒に信仰の道を歩み続けたいと思います。

良い聖母の被昇天のお祝いになりますように!

Happy Feast of The Assumption!

## 信徒会だより

信徒会委員長

新型コロナウイルスの感染拡大により、東京大司教区の指導により、灰の水曜日（二月二十六日）の翌日から公開ミサなどが中止となり、聖週間から復活祭、さらに五月、六月とミサが非公開という私たち信者にとり「霊的渇きの中、いのちを守るために耐え忍びながら」（菊地大司教のことば）、大変寂しい、悔しい期間を過ごすこととなりました。緊急事態宣言が五月二十五日に解除され、六月二十一日から「教会活動を段階的に再開します」との東京大司教区の方針により、高幡教会では第一段階として六十五歳未満で、持病基礎疾患のない方を対象に地域を二グループに分けて、土曜日一六時三十分からと、日曜日十一時三十分から、ミサを再開しました。さらに八月一日（土）より第二段階として、七十五歳未満で、持病基礎疾患のない方がミサの対象となりました。

さらに七十五歳以上で、持病基礎疾患のある方を対象に、八月十五日（土）に聖母の被昇天祭ミサ、九月二十一日（月祝）に敬老のお祝いのミサを予定。また、

八月一日より毎土曜日午前十時～十二時、人数入れ替え制で聖体拝領に与ることができるようになりました。

ミサ再開には「感染防止のためのミサの与り方」のために、三密を避け、身体的距離の確保（一・五m・二m）を実施した場合、ミサに参加できる人数は最大三十四名で、聖堂内の会場設計図（座席表、座席番号等）や係の役割分担など、ルカ神父様を中心に教会委員会では何度も相談をし、もつともよい体制をつくるように研究し、ミサ再開に備えました。

三月二十九日の延期になった「ゆるしの秘跡」を九月十九日（土）に行う予定です。十時～十二時は七十五歳以上の方・持病基礎疾患のある方、十三時～十五時は七十五歳以下の方対象です。司祭は梅崎隆一神父様（聖クラレチアン宣教会CFM）。場所は小聖堂です。

以下に各部の要点等を示します。

一・教会委員会―三月八日、三月二十四日はミサ非公開等について協議、四月十九日、五月十日は中止、五月三十一日はミサ公開準備等について協議、六月六日は公開ミサのシミュレーション等について協議、七月十二日は新たなガイドライン作成（八月から七十五歳未満緩和）、七十五歳以上の方・持病基礎疾患のある方のための被昇天祭ミサ（八月十五日）と敬老ミサ（九月二十一日）、ゆるしの秘跡（九月十九日土曜日・梅崎隆一神父様）等の日程協議。

二・総務―①連絡網の現状把握等のアンケート調査、②信徒とのつながりのために、菊地大司教様からの現状の説明やルカ神父様からの言葉やミサの状況等について手紙発送四回（三月三十日、五月十一日、六月十五日、七月二十日）

三・典札―①ミサ再開のために朗読奉仕、共同祈願奉仕の心得の制作や係員の調整等、②聖書と典札は八月より大判のみにする。

四・会計―①二〇二〇年度決算途中経過（献金等の収入減、②前納達郎財務委員長作成の献金のお願いを三月十四日発行の信者への手紙に同封、③教区本部への献金は減収により四分の三の額でよいことになった。

五・育成―教会学校の新学期は九月から開始予定。

六・涉外―活動はなし。

七・施設―①三月二十七日にエレベーター点検（水漏れはありませんでした）、②分電盤（メインブレーカー）交換、③教会入口看板改修、④教会聖堂と小聖堂の網戸取付等。

むすびに、二月から半年ほどが経過しましたが、信者の皆様への連絡、報告、相談等がいきとどかなく、不安やご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。今後はミサの非公開な状態が早く緩和され、元の状態に少しでも戻れますよう、お祈りいたします。

## 脆い生命の青い星 蛍からのメッセージ

メルセス会日野修道院  
シスター清水靖子

人間界を新型コロナウイルスが席卷している六月のある夜、今年は蛍がどうなっているかを心配しつつ、下のせせらぎに降りてみました。教会前の橋のあせせらぎです。期待はしないまま、暗やみに目をこらすと、一匹、二匹、なんと十匹ほどが・・・静かに点滅をつづけていました。良かった！

ここ数年來、災害の多い年月を経て、その数が減り続けているなかで、希望のメッセージでした。母なる宇宙の永劫の営みのなかの生きとし生けるものからの、「人間もがんばって！」というメッセージのような。何だか涙が出ました。あの二〇一一年に、ジェット気流に乗った福島からの放射能がこの丘を直撃し



た後、特に減ってきた蛍の優しい点滅です。

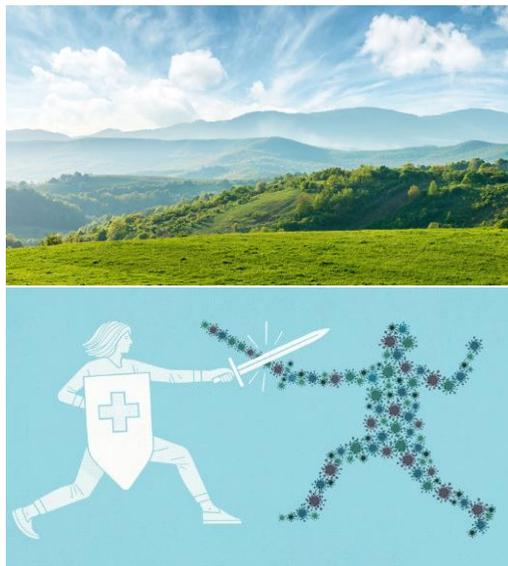
人間の世界の際限なき開発も汚染も戦争も、地球が受け止めてくれると勝手に思い込んできた人間。でも地球の生命の相互依存の共同体は、将棋倒しのように共倒れになる脆い存在であることに、私たちはなかなか目覚められなかったのかも知れません。

最近、教皇庁から出された文書中に、「地球の生命がどんなに脆い (fragile) ものであるか、新型コロナウイルスが気付かせてくれた」という意味の箇所があります。

それは、脆い生命のなかに受肉された、その脆さをも身に帯びておられる神ご自身からのメッセージでもありません。

日本はこの文章を書いている現在、四万人を超える新型コロナウイルス感染者を出しつつも、拡大を止められないでいます。その理由に初期の完全封鎖や、検査態勢が不備であったこと、特に経済活動を優先して早急に自粛を解いた政策が大きかったことは確かです。でも私たち自身の暮らしが、自粛や封鎖を不可能にする状況を帯同していたことも確かです。

政府やマスコミの報道やフェイクニュースのままに、分析する力もなく流されてきた私たち。衣食住を海外からの輸入に頼り、「大切な地産地消」を先進国で最低とする日本の現状では輸入制限は困難です。新型コロナウイルスに向け



るべき税金の多くを戦争の準備に費やしている国家財政。オリンピック実現のための怒濤のような報道。それらの陰で放置される貧困と病苦と路頭に迷っている無数の人々の現実。

私たちが何から目を逸らされているか。何に踊らされているか。私たち自身が目覚めた眼差しで現実を見直すことこそが、まず問われているように思いますが。そのうえで暮らしの転換を見つける方向に・・・

いつか高幡教会でも、地元で苦しんでいる家族や子どもたちへの具体的な何らかの支援を教会共同体として実行していくことができばいいですね。一例として日野市のある教会が行っていることも参考になるかもしれません。唯一の青い星のなかで祈りつつ。

## 聖母マリアと私

フィアット!

「わたしは主のはしためです。お言葉とお  
り、この身になりますように」ルカ一・三  
十八。マリアが天使に答えた、この完全な  
従順に倣いたい。

「神にできないことは何一つない」天使が  
不妊の姉妹エリザベトが子供を宿ってい  
る事を告げると、すぐに、旅支度をして年  
老いたエリザベトを心配して訪問する行  
動力。その思いやる優しい心と美しい姿に  
倣いたい。

マリアを母に持つイエスについて行き  
たいと思い、私は霊名を「マリア・クリス  
ティーナ」に決めて、一九七二年クリスマ  
スに洗礼を受けました。その年の九月から  
参加した入門講座の最初に、神父様は「聖  
書は、神様からのラブレターです」と言わ  
れました。毎週それを受け取るのが、私は  
楽しみでした。すぐに自分は洗礼を受ける  
と思いましたが、神父様にも誰にも私の心  
の内は話さずいました。いつか分からな  
いけれど、神父様からお許しを頂ける日を  
待ってあげたいと思っておりました。

木々の葉が色づく五日市での一泊練成  
会。川原と一緒に歩いていた神父様が、勉  
強を始めて日の浅い私に「クリスマスに洗  
礼式をしましょう」と仰いました。私は「は  
い」とお答えしました。最上の恵みを、こん  
なにも早く受けるとは。この神さまの計ら

いを今でも不思議に思います。  
私が、マリアの生涯の厳しさ、苦しさ、  
身に起こる理解し難い事、悲しみの極みを  
味わう事を知っていたら、霊名に選んでい  
たでしょうか。

ベトレヘムで宿がなく馬小屋での出産。  
ヘロデから逃れるためのエジプトへの旅。  
エルサレム神殿での出来事。少年イエスの  
言葉の意味が分からないにもかかわらず、  
すべてを心に納めたこと。

ガリラヤのカナで婚礼の奇跡。  
十字架上のイエスが母に、「婦人よあなた  
の子です」。弟子に、「この婦人は、あなた  
の母です」と言われたこと。

イエスの昇天後、弟子たちと心を合わせ共  
に祈っていた聖母マリアの姿。

理不尽な事も、泣き叫びたいことも、「神  
さまのなさることに間違いない」と、すべ  
てを受け入れ、心を納めて、マリアは私た  
ちの母となってくれました。

聖母マリアに倣うことは容易いことで  
はなく、自分の小ささを知れば知るほど恥  
じるばかりですが、イエスは心を入れ替え  
て子供のようにならなければ、決して天の  
国に入ることはできないと言われました。

聖人たちの名前もよく知らず選んだ霊名  
ですが、良かったと思います。これからも、  
聖母マリアに私の生活から十字架を遠ざ  
けるのではなく、担うことを助けて頂きな  
がら、何度も、何度もイエスへの取り次ぎ  
を願い、「謙遜」「心に納めておもいめぐら  
すこと」を携え歩んで行きたいと思いま  
す。マリアの香りただよう風になれますよ  
うに。静かに祈りながら一歩、一歩・・・

<7月20日の手紙をご覧ください>

### ◆ゆるしの秘跡◆

・ 9/19(土)

### ◆聖体拝領◆

・ 8/22(土)、8/29(土) 10:00~12:00

・ 9/5(土)、9/12(土)、9/26(土) 10:00~12:00

### <編集後記>

春からのコロナ騒動で私たちの生活は大きく変わり、  
人々との接触機会も減りました。でも、自宅でゆっくり  
読書し思索し、信仰も見直すことができました。あらゆる  
出来事も何かの意義があると思います。あれは高幡  
教会が生まれ変わるターニングポイントだったと後で  
50周年を振り返ることができそうですように祈っています。

### ◆高幡教会のミサ時間◆

①多摩ニュータウン、平山、電建・高幡

②三井・南平、由木・八王子、百草・三沢

・ 8/22(土)16:30②、8/23(日)11:30①

・ 8/29(土)16:30①、8/30(日)11:30②

・ 9/5(土)16:30②、9/6(日)11:30①

・ 9/12(土)16:30①、9/13(日)11:30②

・ 9/19(土)16:30②、9/20(日)11:30①

・ 9/21(月・祝)11:00②、14:00① (敬老お祝い)

・ 9/26(土)16:30①、9/27(日)11:30②

### ◆高幡教会ホームページの URL◆

<http://www.cctakahata.jp/>